様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　 ５ 月 ２８ 日現在

機関番号：３７１２３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2021
課題番号：１７Ｋ１２３３４

研究課題名（和文）暴力の加害者・被害者を予防する10代の若者向けeラーニングとDVD映像教材の開発

研究課題名（英文）Development of Web-Based Learning and DVD Video Teaching Materials to Prevent Adolescents from Becoming Perpetrators or Victims of Violence

研究代表者
永松　美雪（Nagamatsu, Miyuki）

日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・教授

研究者番号：３０５５０７６９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：DVDビデオ教材を使用した教育と教育前後の調査に876人（回集率65.5%）の生徒が同意し参加した。このうち、教育前と教育後の両方の調査に参加した10代の回答者数は705人（有効回答率80.4%）であった。eラーニングの学習を受け学習前と学習後の両方に回答した10代の対象者は250人（有効回答率87.1%）であった。
2つのプログラムの改善効果は、身体的暴力につながる態度、精神的暴力につながる態度、健全な紛争解決を促進する態度、および地域やインターネットを介した性的暴力につながる危険な態度で観察されました。特に、eラーニングプログラムは、性的暴力に対する予防的態度の改善を認めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
DVDビデオ教材を使用した教育とeラーニングの学習を使用した教育プログラムは、日本の10代の若者の性的暴力を防ぐのに役立つことが明らかとなった。特に、eラーニングプログラムは、性的暴力に対する予防的態度の改善を認めたことは、eラーニングをもとに個人で性暴力を予防するために学習する対象者を拡大することに貢献できた。

研究成果の概要（英文）：In the first stage, 876 students consented to and participated in the education using DVD video teaching materials and baseline and after surveys (collection rate 65.5%). Among these, the number of respondents in their teens both baseline and after education was 705 persons (valid response rate 80.4%). In the second stage, the number of respondents in their teens both baseline and after education was 250 respondents in their teens who received web-based learning using the improved video teaching materials (valid response rate 87.1%). The improvement effect of the two programs was observed in attitudes that lead to physical violence, attitudes that lead to mental violence, attitudes that promote healthy conflict resolution, and dangerous attitudes that lead to sexual violence from persons in the community or through the Internet. The web-based learning program achieved an improvement of preventive attitudes toward sexual violence.

研究分野：看護学

キーワード：10代　性暴力　予防　教育

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

１）日本の暴力に関する実態

日本では，DV（Domestic Violence）防止法の改正により生活の本拠を共にする交際相手からの暴力も保護命令発令の対象になり，ストーカー規制法の改正によりメールの連続送信が規制の対象となった[1)]。2017年，交際相手からの暴力の被害経験は，女性21.4%，男性11.5%と報告されている[2)]。また，若者によるインターネットの利用は，交際相手へのメール配信に限らず，掲示板を通じた援助交際の誘引や自画撮影画像の要求など言動による脅しを含む，望まない性的接触を目的とする暴力及び暴力未遂など性暴力被害の機会になっている[3)]。近年，日常的にインターネットが利用できるスマートフォンの利用率は増加し，中学生で約70%，高校生では97.5%になっている[4)]。日本の研究において，10代での性暴力被害の危険につながる要因として，インターネットで初めて知り合った相手へメッセージや写真を送る行動，性行為を容認する態度，DVに対する低い認識が関連していることが明らかになった[5)]。

さらに，2017年，警察庁の報告による男女共に被害となる強制わいせつの認知件数，検挙件数及び検挙人員は，強制わいせつと公然わいせつを分けて統計を取り始めた1966年以降で最多で4320件と報告された[6)]。2017年，これまでの女性の場合のみに限定されていた強姦罪から，男性が被害者の場合を含めた，性別不問の規定として強制性交等罪に改正され，2017年の強制性交での被害件数は1027件と報告された[6)]。そのうち，強制性交の加害者は被害者と面識ある者が57%であり[6)]，被害を訴えにくい状況から，実際には，これより多い現状が推測される。

２）理論的背景と国際的な性暴力予防のための研究

Cohen & Felson は，犯罪者の存在，適当な標的と有能な保護者の不在の 3 つの要因から犯罪が生じるという日常活動理論（Routine activity approach）を提唱した [7)]。また，Gottfredson & Hirschi は，自制力が低いことによる影響として犯罪が起こる可能性が高くなるという自制論（Self-control theory）を唱え，自制力が低い女性は，より性的暴力を受けることを報告した [8)]。さらに，米国で報告された研究によると，女子大生の性的暴力は，低い自制力と日常生活活動との間にかなり関連していることを示した [9)]。日常生活の中で生じる様々な問題や要求に対して，建設的かつ効果的に対処するために必要な心理社会的能力をライフスキルと定義されており，その中でもソーシャルスキルは，人とよりよい関係性を築いていくための基本的なコミュニケーションに重きを置いており，コミュニケーションをベースとしたソーシャルスキルトレーニング（SST：Social Skills Training）が健全な関係にとって必要である [10)]。米国で Ball らは，暴力の加害者・被害者となるリスクが高い中学生や高校生に対して，支援グループによる暴力防止プログラムにより，ソーシャルスキルトレーニングを実施する介入前より介入後に男女関係や友人関係における暴力を減らし，健康的な関係のスキルを向上したと報告している [11)]。

３）日本における暴力の予防教育

中学生への DV の認識を高め，男女がお互いを尊重する関係を育成するための集団教育は認めるが [12)]，日本において暴力予防教育について実証性のある研究は少ない。そこで，本研究代表者により，一地方で中学生向けの親しい相手や地域及びインターネットを通じた性暴力予防と対応について教育するための方法として，ICT (Information and Communication technology) を活用した学習を強化し効果があることが示唆された [13)]。さらに，全国で 10 代の若者が暴力の加害者や被害者になることを予防するためには，対象者や地域を拡大した取り組みが必要である。

２．研究の目的

10代の若者が学習できる教材として，親しい相手や地域及びインターネットを通じた相手からの暴力の加害者・被害者になることを予防するための教育を展開することを目的とする。そのために，インストラクショナルデザインとその理論を基盤とし，暴力予防や暴力に遭いそうになった時の対応について具体的にイメージできる事例を通して学ぶ，DVD（Digital Versatile Disc）映像教材を開発し，学習者が主体的に学ぶeラーニングの映像コンテンツを開発し，実施・評価することを目的とする。

３．研究の方法

１）教育方法

（１）教育の理論

教育効果を高めるために，本研究で取り組むインストラクショナルデザインは知識，技術，態度を学習者に習得させる理論として Attention：注意「おもしろそうだ」，Relevance：関連性「関係ありそうだ」，Confidence：自信「やればできそうだ」，Satisfaction：満足「やってよかった」（以下 ARCS）モデル[14]や Gagne の 9 教授事象を導入しながら，学習教材やプロセスを構築していくものである[15]。また，インストラクショナルデザインを基盤に，ARCS モデル及び Gagne の 9 教授事象を取り入れながら，具体的にイメージできる事例を紹介する e ラーニングの映像コンテンツを開発し，親しい相手やインターネットを通じた相手からの性暴力の加害者・被害者になることを予防するための映像教材を用いた教育を展開する。さらに，学習者が主体的に学ぶ参加型の学習プロセスを構築した。

（２）教育目標

①対等な関係について考えることができる。

②身近な相手との関係にひそむ危険やその対策・対応について学ぶことができる。

③地域における性的な被害について知ることができる。

④インターネットを通した知らない相手への情報発信の危険性について考えることができる。

⑤望まない妊娠の予防について学ぶことができる。

（３）教育内容と時間

第 1 段階，10 代の若者向けの加害者・被害者になることを予防するための教育として DVD 映像教材のテーマを「あなたとわたしにひそむ危険と楽しい関係」とし，学習の構成は 2 ステップとした。視聴時間は 1 ステップが約 17 分，2 ステップが約 21 分の合計約 38 分で，学習前後に約 5 分の質問に答えるものとした。

第 2 段階，DVD 映像教材を改善した e ラーニングのテーマを「あなたとわたしにひそむ危険と対等な楽しい関係」とし，視聴時間は 1 ステップが約 15 分，2 ステップ約 17 分の合計約 32 分で，学習前後に約 5 分の質問に答えるものとした。

尚，この研究は，科学研究費助成事業として研究費を受けて実施した「暴力の加害者・被害者を予防する 10 代の若者向け e ラーニングと DVD 映像教材の開発」研究である（課題番号：17K12334）。

２）調査方法

第 1 段階として，2018 年 6 月～2019 年 3 月，A 地域の学校長や学長など施設長からの研究

承諾を得た 3 高等学校と 4 大学で DVD 映像教材を用いた教育を実施した。高校生と大学 1･2 年生の計 1337 名のうち，10 代の対象者を分析対象に DVD 映像教材を使用し，実施・評価を行った。研究協力者からの感想や意見も参考に映像教材を洗練した。第 2 段階として，2019 年 11 月～2020 年 3 月，改善した映像教材を活用した e ラーニングを開発し，それを用いた教育を実施した。e ラーニングに参加した 287 名のうち，10 代の対象者を分析対象に，e ラーニングを活用した教育を実施･評価した。日本赤十字九州国際看護大学研究倫理委員会の承認を得て実施した。

３）評価内容

Ball により開発された暴力を起こそうとする態度と健康的に攻撃を解決しようとする態度，研究者により開発した性暴力に対する危険な態度と性暴力に対する予防的な態度，教育の感想・意見の自由記載で評価した。

４．研究成果

１）DVD 映像教材を使用した教育前後の調査結果（表 1）

DVD 映像教材を使用した教育の前後の調査に同意し，参加した者は 876 名（回収率 65.5%）であった。そのうち，10 代で教育前後共に回答した者は 705 名（有効回答率 80.4%）であった。

教育前に比較して教育後は，暴力を起こそうとする態度の平均得点が低下した（$p<0.001$）。そのうち，身体的暴力を起こそうとする態度と精神的暴力を起こそうとする態度の両方の平均得点も低下した（$p<0.001$）。また，健康的に対立を解決しようとする態度の平均得点が上昇した（$p<0.001$）。そのうち，共感性，自己表現，相手の協議，攻撃の回避，全ての態度の平均得点が高まった。さらに，地域やインターネットを通じた相手からの性暴力への危険な態度の平均得点が低下し（$p<0.001$），性暴力の予防的態度平均得点が上昇する（$p=0.063$）という効果を認めた。

表1　DVD映像教材を用いた教育とeラーニングの前後の変化

	DVD映像教材を用いた教育 (n=705)						eラーニング (n=250)						DVD映像教材を用いた教育とeラーニング×	
	教育前		教育後		前後の変化 a)		教育前		教育後		前後の変化 a)		前後の変化 b)	
	M	*SD*	*M*	*SD*	*F*	*p*	*M*	*SD*	*M*	*SD*	*F*	*p*	*F*	*p*
暴力を起こそうとする態度	0.46	0.43	0.25	0.31	107.70	<0.001	0.36	0.41	0.15	0.24	46.24	<0.001	0.03	0.862
身体的暴力を起こそうとする態度	0.41	0.63	0.15	0.38	87.80	<0.001	0.25	0.52	0.04	0.19	35.55	<0.001	1.06	0.303
精神的暴力を起こそうとする態度	0.48	0.44	0.27	0.33	88.64	<0.001	0.39	0.42	0.18	0.27	41.50	<0.001	0.02	0.883
健康的に対立を解決しようとする態度	2.02	0.53	2.36	0.62	111.91	<0.001	2.08	0.52	2.52	0.53	82.72	<0.001	2.75	0.097
共感性	2.22	0.69	2.51	0.74	55.44	<0.001	2.35	0.63	2.71	0.54	45.90	<0.001	1.01	0.313
自己表現	2.07	0.69	2.40	0.73	68.43	<0.001	2.15	0.70	2.58	0.60	54.34	<0.001	2.40	0.121
相手と協議	2.12	0.77	2.48	0.78	75.56	<0.001	2.27	0.73	2.67	0.64	40.72	<0.001	0.18	0.672
攻撃の回避	1.52	0.88	1.69	1.05	42.99	<0.001	1.34	0.69	2.01	1.07	55.78	<0.001	10.03	0.002
性暴力に対する危険な態度	0.43	0.54	0.23	0.45	55.89	<0.001	0.26	0.50	0.17	0.36	24.19	<0.001	0.02	0.880
性暴力に対する予防的な態度	2.62	0.58	2.68	0.64	3.46	0.063	2.61	0.60	2.80	0.45	15.94	0.001	4.26	0.039

a) 分散分析による各変数の教育前後の比較

b) 2元配置分散分析によるDVD映像教材を用いた教育とeラーニングの教育前後の変化の比較

２）e ラーニングによる教育前後の調査結果（表 1）

研究参加者からの感想・意見をもとに改善した映像教材を活用した e ラーニングに参加した者のうち，教育前後共に回答した 10 代の対象者は 250 名（有効回答率 87.1%）であった。

教育前に比較して教育後は，暴力を起こそうとする態度の平均得点が低下した（$p<0.001$）。そのうち，身体的暴力を起こそうとする態度と精神的暴力を起こそうとする態度の両方の平均

得点も低下した（p <0.001）。また，健康的に対立を解決しようとする態度の平均得点が上昇した（p <0.001）。そのうち，共感性，自己表現，相手と協議，攻撃の回避の全ての態度の平均得点が高まった。さらに，地域やインターネットを通じた相手からの性暴力への危険な態度の平均得点が低下し（p <0.001），性暴力の予防的態度平均得点が上昇した（p =0.001）という効果を認めた。これらのように，DVD 映像教材を使用した教育と同様に e ラーニングによる教育の効果が確認された。e ラーニングによる教育後の自由記載欄に，研究参加者から肯定的な感想を認めたが，否定的な感想・意見を認めなかった。さらに，2 元配置分散分析により DVD 映像教材を用いた教育と e ラーニングの教育前後の変化を比較すると，e ラーニングは，DVD 映像教材を用いた教育より，性的暴力に対する予防的態度の改善を認めたことが示された（p =0.039）。

引用文献

1） 内閣府：男女間における暴力に関する調査．男女共同参画局，2015.

2） 内閣府：男女間における暴力に関する調査．男女共同参画局，2017.

3） 井上英喜：児童・生徒のネット被害の状況とその対策．思春期学，32(1)，25，2014.

4） 内閣府：平成 30 年度　青少年のインターネット利用環境実態調査結果. 平成 31 年 2 月報告，　file:///C:/Users/Nagamatsu/Desktop/sokuhou.pdf　2019. (2020.2.16)

5） 永松美雪，原健一：思春期早期での性暴力被害の危険につながる要因．思春期学, 34(1), 190-199, 2016.

6） 警察庁：平成 29 年刑法犯に関する統計資料．2018. https://www.npa.go.jp/news/release/2018/20180719001.html　(2020.2.16)

7） Cohen, L.E. & Felson, M.：Social change and crime rate trends: A routine activity approach. American Sociological Review, 44, 588-608, 1979.

8） Gottfredson, M. R., & Hirschi, T.：A General Theory of Crime. Stanford, CA: Stanford University Press, 1990.

9） Franklin, C.A., Frankline, T.W., Nobles, M.R., & Kercher, G.：Risk factors associated with women's victimization. The Crime Victims' Institute, 1-17, 2011.

10） Liberman, R.P., & Derisi, W.J.: Social skills training for psychiatric patients. Psychology Practitioner, 1987.

11） Ball, B., Teharp, A.T., Noonan R.K., Valle, L.A., Hamburger, M.E. & Rosenbluth, B.：Expect respect support groups: preliminary evaluation of a dating vilence prevention program for at-risk youth. Violence against women, 18(7), 746-762, 2012.

12） 永松美雪，原健一，中河亜希，中野理佳：性行動に伴う危険を予防するプログラムの効果：性感染症予防教育に男女がお互いを尊重する関係を育成する教育を組み合わせて．思春期学，30 (4), 365～376，2012.

13） Nagamatsu, M., Hara, K., Yano, K., Outa, K., & Takasaki, M.: Web-based education for preventing sexual violence among junior high school students in Japan. School Health, 34-42, 2019.

14） Keller, J.M.: Motivational design for learning and performance：The ARCS model approach. Springer Science & Business Media, 2009.

15） Gagne, R.：The Conditions of Learning (4th.). New York: Holt, Rinehart & Winston, 1985.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 永松美雪，大重育美，石山さゆり，園田希，新名美佳，原健一	４．巻 39
２．論文標題 性暴力の加害者・被害者を予防する10代の若者向け映像教材の評価	５．発行年 2021年
３．雑誌名 思春期学	６．最初と最後の頁 158-172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Nagamatsu Miyuki、Ooshige Narumi、Sonoda Nozomi、Niina Mika、Hara Ken-ichi	４．巻 26
２．論文標題 Development of a program to prevent sexual violence among teens in Japan: education using DVD video teaching materials and web-based learning	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Environmental Health and Preventive Medicine	６．最初と最後の頁 －
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12199-021-00964-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 永松美雪，大重育美，石山さゆり，中村美佳，園田希，原健一
２．発表標題 暴力の加害者・被害者を予防する10代の若者向けeラーニングの開発
３．学会等名 第38回日本思春期学会総会･学術集会
４．発表年 2020年

１．発表者名 Miyuki Nagamatsu, Narumi Ooshige, Sayuri Ishiyama,Nozomi Sonoda, Mika Niina, Ken-ichi Hara
２．発表標題 Developing video teaching materials to prevent sexual violence in Japan
３．学会等名 32nd International Confederation Midwives Vietual Congress（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 永松美雪，大重育美，石山さゆり，中村美佳，園田希，原健一
２．発表標題 高校生・大学生にける暴力の加害者・被害者を予防する10代の若者向け映像教材の開発
３．学会等名 第37回日本思春期学会総会･学術集会
４．発表年 2019年

１．発表者名 中村美佳，石山さゆり，園田希，永松美雪
２．発表標題 暴力の加害者・被害者を予防する10代の若者向け映像教材を使用した教育効果
３．学会等名 第33回日本助産学会総会･学術集会
４．発表年 2019年

１．発表者名 大重育美
２．発表標題 大学生における暴力の加害者・被害者を予防するDVD映像教材を使用した教育効果
３．学会等名 第13回日本医療マネジメント学会 大阪支部学術集会
４．発表年 2020年

１．発表者名 永松美雪，大重育美，石山さゆり，中村美佳，園田希，原健一
２．発表標題 高校生にける暴力の加害者・被害者を予防する10代の若者向け映像教材の開発
３．学会等名 第36回日本思春期学会総会･学術集会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

あなたとわたしにひそむ危険と対等な楽しい関係 https://www.jrckicn.ac.jp/e-learning/ eラーニング「あなたとわたしにひそむ危険と対等な楽しい関係」日本赤十字九州国際成育看護学制作 https://www.jrckicn.ac.jp/e-learning/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	大重　育美 (Ooshige Narumi) (70585736)	長崎県立大学・看護栄養学部・教授 (27301)	
研究分担者	石山　さゆり (Ishiyama Sayuri) (80336122)	日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・准教授 (37123)	
研究分担者	園田　希 (Sonoda Nozomi) (70826362)	宝塚大学看護学部・看護学部・講師 (34520)	
研究分担者	中村　美佳 (Niina Mika) (10828297)	日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・助教 (37123)	2020年3月退職のため研究分担者を中止する。
研究分担者	後藤　智子 (Goto Tomoko) (30441877)	日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・准教授 (37123)	2018年3月退職のため研究分担者を中止する。

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	島崎　梓 (Simazaki Azusa) (20756879)	日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・助手 (37123)	2018年3月退職のため研究分担者を中止する。

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関